広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業
令和５年度補助事業　成果報告書

<table>
<tr><td colspan="2">大学等名</td><td>学校法人安田学園　安田女子大学</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育研究活動</td><td>区分</td><td>⑥観光資源の共同開発・PR</td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td>魅力ある特産品の高付加価値化による経済活性化（※継続事業２年目）</td></tr>
<tr><td colspan="2">連携した市町</td><td>広島市　：経済観光局産業振興部商業振興課・企画総務局企画調整部広域都市圏推進課
江田島市：産業部交流観光課商工交流係・企画部企画振興課
広島県　：地域政策局中山間地域振興課・商工労働局イノベーション推進チーム</td></tr>
<tr><td colspan="2">連携した企業団体等</td><td>京都万華鏡ミュージアム（京都市）
津島織物製造株式会社（江田島市）／竹炭工房おおがき・味づくり研究会（江田島市）
ホテルグランヴィア広島（広島市）／江田島荘（江田島市）
トーホー株式会社（TOHO BEADS）（広島市）
株式会社歴清社（REKISEISHA）（広島市）
株式会社 Raymaka／ZANPUP（広島市）<u>※「紙布プロジェクト」に関する協定締結</u>
たびまちゲート広島 地域事業部（広島市）
株式会社イノベイト（東京都武蔵野市）</td></tr>
<tr><td colspan="2">指導教員</td><td>安田女子大学　現代ビジネス学部公共経営学科　講師　山田 貴子</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加学生</td><td>現代ビジネス学部公共経営学科３年生「地域活性化ゼミ」６人
小城 美咲・氏家 菜桜・川井 穂乃佳・久保 桃香・谷崎 桃花・堀江 美桜</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業の目的</td><td>広島広域都市圏には、若年層を中心とした人口流出を背景に高齢化が加速し、基幹産業である一次産業の衰退や地域の担い手不足など地域コミュニティの存続が危ぶまれる中山間地域が多く存在する。こうした地域では、熟練した職人による細やかな技術・技法によって手作業で作られ、長く受け継がれてきた伝統産業品が存在する。江田島市で 130 年以上の歴史をもつ津島織物製造株式会社の「紙布（しふ）」もそのひとつである。和紙を紡いで布を織りあげる紙布は、国内での製造・販売が江田島市と静岡市の２社のみとなり、特別に改良された織機と職人による手作業で作られている。吸放湿性や通気性が高く「呼吸する壁紙」と呼ばれているが、ライフスタイルの変化や安価な塩化ビニール樹脂系壁紙の流通による需要の低迷、量産化の難しさ、従業員不足等の理由から縮小傾向にある。こうした閉塞状況から抜け出すためには、歴史・文化・技術面において優れた価値を有する伝統産業品をこのまま風化させてしまうのではなく、伝統の技術を生かしつつ現代のライフスタイルや志向にあった商品として新たな命を吹き込むことで付加価値を高め、新規市場の開拓を図る必要がある。モノ（製品）とヒト（消費者）とをつなぎ、伝統産業品がもつ多様な価値を次世代に継承していくことで地域経済の活性化と広島広域都市圏における交流循環の活発化を図ることを目的とする。
①江田島市の伝統産業である「紙布」の維持・発展を目的に新規需要が増えるような PR 手法やブランディング方法を研究・実践することで、「紙布」の付加価値を高める。
②広島ブランドを掛け合わせ、その魅力を県内外に広く発信し、生産者と消費者とのつながりを促進することで、圏域全体のさらなる交流・経済の活発化を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>事業の特色</td>
<td>

●工場見学と製作体験（research ＆ fieldwork）

魅力ある伝統工芸（紙布/万華鏡/ビーズ/箔押し）について、事前調査や製造工場見学、気候的風土を含めた現地調査を行うだけではなく、実際に製作体験をすることで経済価値や希少性、模倣困難性といった強みをさらに活かす方策について検討した。

●専門家によるマーケティング戦略・製作指導（lecture ＆ groupwork）

伝統工芸品に込められた作り手の思いや歴史的・文化的価値などの魅力を発掘し、そこに新たな物語的価値を付与できるようなPR手法や現代の生活ニーズに適合した商品開発に取り組むにあたり、それぞれの分野の専門家による助言・指導を受けた。

●連携する企業・団体からの支援と評価（support ＆ feedback）

商品開発とPR戦略を進めていく際に、学生たちと連携する事業者の思いに溝が生じないよう、こまめに情報を共有しながら活動を進め、学生たちが気軽に質問できる環境をつくった。また、中間・最終成果発表会を開催し、連携先自治体・企業が対面・オンラインのいずれかで参加できるよう、ハイブリッドによる意見交換の場を設定した。

●活動に主体的に取り組むための振り返りと記録（reflection ＆ portfolio）

6人を3つのプロジェクト（紙布・万華鏡・メンマ）のリーダーとすることで責任を明確にし、主体的に参加できる基盤をつくった。また、今後やるべきことを明確にするため、必ずリフレクションを実施し、対面での議論をもとに活動のプロセスを可視化した。

</td>
</tr>
<tr>
<td>活動の成果</td>
<td>

① 紙布プロジェクト（リーダー：氏家菜桜・谷崎桃花）

G7サミット歓迎レセプション展示を経て、製品化・販売に向けて「サスティナブルなものづくり」を企業理念として掲げる株式会社Raymaka/ZANPUPと協定を締結。4P分析、VRIO分析およびテストマーケティングによる市場分析、紙布の希少性、機能性および意匠性、模倣困難性といった多くの強みを生かせるような販売戦略（パッケージの考案や販売ディスプレイ・HP宣材写真の撮影）について検討した。3月上旬に初回限定生産200個/1,980円（税別）での販売を開始する目途が立ち、江田島荘での販売を起点にオンライン販売、広島市内を土産物店での販売と徐々に販路を拡大して「紙布」の認知向上を図る予定である。

完成した紙布スリーブ

② 万華鏡プロジェクト（リーダー：小城美咲・堀江美桜）

京都万華鏡ミュージアム、トーホー株式会社のビーズ工場、歴清社の工場見学・製作体験実習を踏まえ、昨年度の「手作りキット」案から「広島らしさと癒し効果」の2つを兼ね備えたインテリアとしての飾れる万華鏡を提案。芸術性の高いインテリアとして歴清社の唯一無二の技術である「箔押し」を表面にあしらい、オブジェクトには世界に誇る最高品質のトーホービーズを使用した高級感のあるBOX型万華鏡の試作品を製作。発想/着想部分では高い評価を得たものの、「広島らしさ」のアピール方法、想定価格に見合ったクオリティの向上、他との差別化を図るための特別感の付与、土産物としての購入を促進するサイズ・梱包のし易さなど解決すべき課題も見つかった。

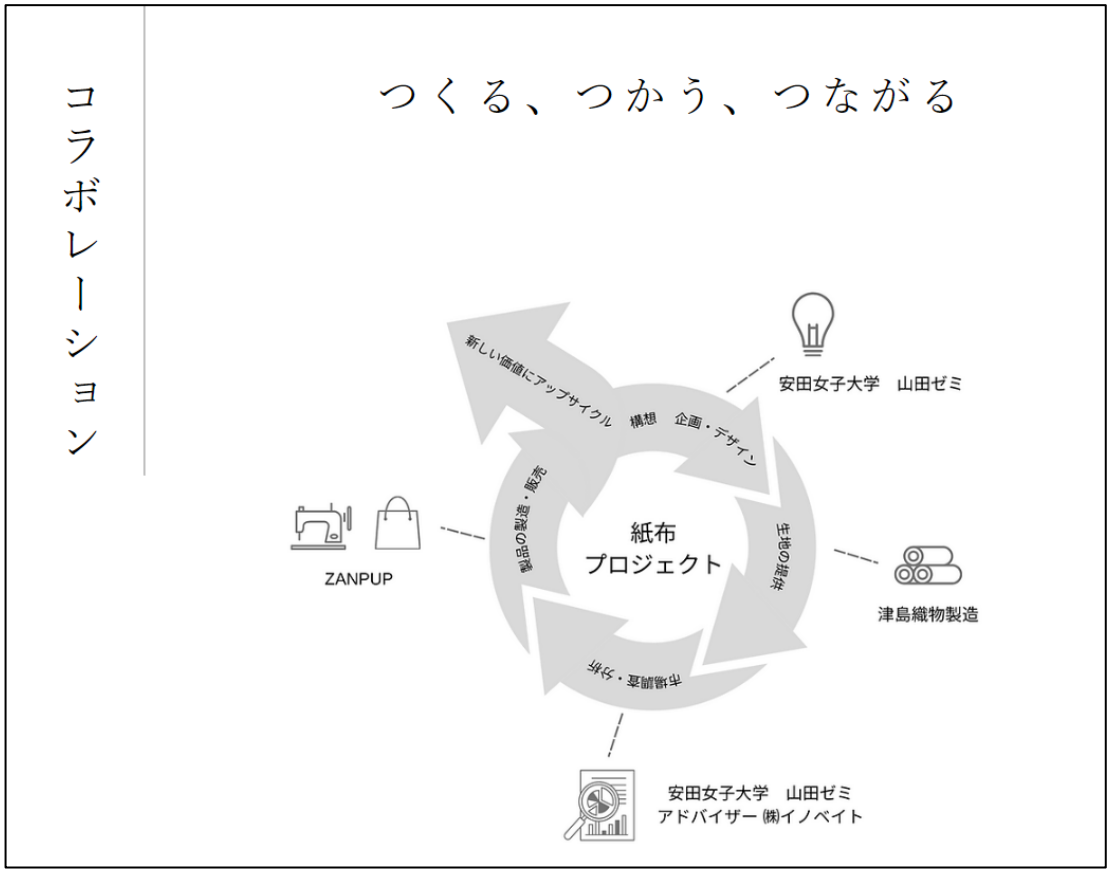
万華鏡BOX/オブジェクトの試作品

</td>
</tr>
</table>

活動の成果	**③ メンマプロジェクト**（リーダー：川井穂乃佳・久保桃香） 江田島市での活動がきっかけとなり「ぜひ若い学生の感性・エネルギーを借りたい」と竹炭工房おおがきの大本代表から協力要請があり、急遽取り組むことになったメンマプロジェクト。さとやま元気交流会に参加し、江田島市でも放置竹林が深刻化していることを学んだ。そこで、積極的に幼竹を食べることで地域の環境保全を応援する「純国産メンマプロジェクト」に取り組み、本学管理栄養学科渡邉ゼミと共同開発した「メンマ餃子」「チョコっと dip メンマ」「メンマ飯」の 3 つの新商品を提案。えたじま手づくり市では、実演販売で 150 食を完売した。今後は「販路開拓」か、一般ユーザー向けの「認知向上」か、先行事例をも多くあるため「江田島オリジナル商品開発」にこだわるのかなどゴール設定を再検討したうえで継続して取り組むこととなった。なお、ロゴデザインの考案では、本学造形デザイン学科 2 年生の有志メンバーも参加した。 えたじま手づくり市での販売（光源寺） **■広島広域都市圏協議会での活動成果発表（presentation）** 【日時】2024 年 2 月 9 日（金）16：10-16：50 【場所】Sunstar Hall（安芸郡坂町坂東 2 丁目 20-1） 【内容】学内で開催した中間・最終成果発表会での助言をもとに修正を加え、「紙布プロジェクト」と「万華鏡プロジェクト」の取組について試作品の披露と販売戦略、本活動が目指すゴールについて発表した。 発表後の質疑応答では、江田島市の明岳市長から「昨年の先輩たちの活動から G7 サミットを経て、製品化・販売まで進めたことが素晴らしい。ぜひ紙布の手触りの良さを一人でも多くの方に知ってもらえるよう今後も活動を継続してください」と励ましの言葉をいただいた。 また、会長の広島市・松井市長からは、総括として「人口減少はどの地域でも避けられない課題。少しでもそのスピードを緩やかにしていけるように、より一層各自治体や地元企業、大学生たちが連携し、このような取組を積極的に展開していきましょう」という力強い言葉をいただいた。 3 月以降も継続事業として、まずは「紙布スリーブ」（初回生産 200 個）の販売場所確保に向けて、販売店との商談、HP の実装、各種 SNS でのプロモーション活動を順次展開する。「紙布プロジェクト」は、第二弾としてスリーブの次の商品開発も予定しており、引き続き自治体・事業者と連携しながら地域活性化に尽力する。

活動の成果	**■プロモーション活動** 地域社会とのさらなるコミュニケーション強化を図るため、活動実績をまとめた報告書を作成し、連携・協力先に配布予定である（3 月中旬）。テストマーケティングの際にはフライヤーを 200 枚配布し、江田島ブランド「紙布」とザ・広島ブランドである「トーホービーズ」「歴清社の箔押し」の認知向上に努めた。また、活動の成果を大学 HP や関係団体の Web サイト、活動に参加した学生の SNS 等で積極的に情報発信をし、該当地域を応援してくれる新たなファンの獲得を図った。 2023 年度 PBL 活動報告書 テストマーケティングで配布したフライヤー 紙布スリーブの Instagram **■期待される効果の検証** **①学生に対する効果** ・多様な立場の人々と協働で試行錯誤を繰り返す「地域連携型 PBL」に取り組むことで、広い視野をもち、主体的に課題を発見し解決する力を養うことができる。 ・より一層広島広域都市圏への愛着と誇りを深め、大学卒業後も継続的に多様な形で関わりを持ち続けていこうとする意識の醸成が期待できる。 **➡学生のリフレクションレポートおよび最終レポートの内容から十分に達成できたと判断する。活動内容が多岐に渡ることから、学内における他学科の学生（管理栄養学科・造形デザイン学科）との関わりが生まれ、互いの強みを尊重しながら協働できた。** **②地域に対する効果** ・学生たちが歴史・文化・技術面において優れた価値を有する伝統産業や地域特性の魅力を再発見する活動を行うことで、圏域全体にモノ・コト・ヒトの交流が拡大できる。 **➡G7 広島サミット歓迎レセプションを契機に江田島ブランドである「紙布」を圏域全体に広く PR することができた。江田島市を起点に自治体・企業・大学の産学官連携の絆が深まった。** **③関連団体等に対する効果** ・「紙布」がもつ経済的価値や希少性、模倣困難性といった強みを若者独自のユニークな視点から捉え直し、現代のニーズに適合した商品開発および PR に取り組むことで、「紙布」に新たな物語的価値が付与され、関係事業者の新規市場開拓を図ることができる。 **➡広島市を拠点に「サスティナブルなものづくり」に取り組んでいる企業（株式会社 Raymaka/ZANPUP と連携し、「紙布スリーブ」の製品化が実現できた。今後は販売や OEM 展開などさらなるステージでの協働が想定され、連携先企業の新規市場開拓に貢献できた。**

活動の成果 および 今後の活動	**■安田女子大学・ZANPUP の共同開発による「紙布プロジェクト」の PR** 江田島ブランドである「紙布」の歴史的・文化的価値および共同開発によって誕生したアップサイクル製品「紙布スリーブ」の認知向上を図るため、ZANPUP 公式 HP にて本取組の目的や実施体制を PR した。



共に創る、イマとミライ。

（出所：https://www.zanpup.com/shifu より抜粋）

本取組は「2023 年度第 7 回中国地域女性ビジネスプランコンテスト SOERU」において、学生初となる特別賞を受賞。連携先である株式会社 Raymaka/ZANPUP は優秀賞を受賞した。

なお、次年度は本事業に取り組んだ学生が卒業論文・就職活動に注力することになるため、新たに「地域活性化ゼミ」に加わる新 3 年生 5 名が中心となり、先輩たちの功績を引き継ぎながら地域貢献人材としてさらなる活動を展開していく予定である。